せんじゅの灯（ともしび）

酒　泉　　彰 作詞
加羅古呂庵 一泉 作曲

2022.11.7 作曲

せんじゅの灯（ともしび）

北海道の北見市に、ご主人とおかみさんが切り盛りしている居酒屋があります。名前を「せんじゅ」といいます。

このお店に、毎年秋になると、変な３人組がやって来ます。羽田からの飛行機もバラバラ、宿もバラバラなのですが、なぜか北見の夜に「せんじゅ」に集まって来るのです。道東の自然や人とのつながりに惹かれて、もう何年も訪れているので、北見の街や周辺の自然は故郷のように感じられます。そして、「せんじゅ」で、付箋紙に書かれたメニューを見ながらつまみを注文しては、ビールとノンアルコールビールで談笑するのが楽しみになっています。

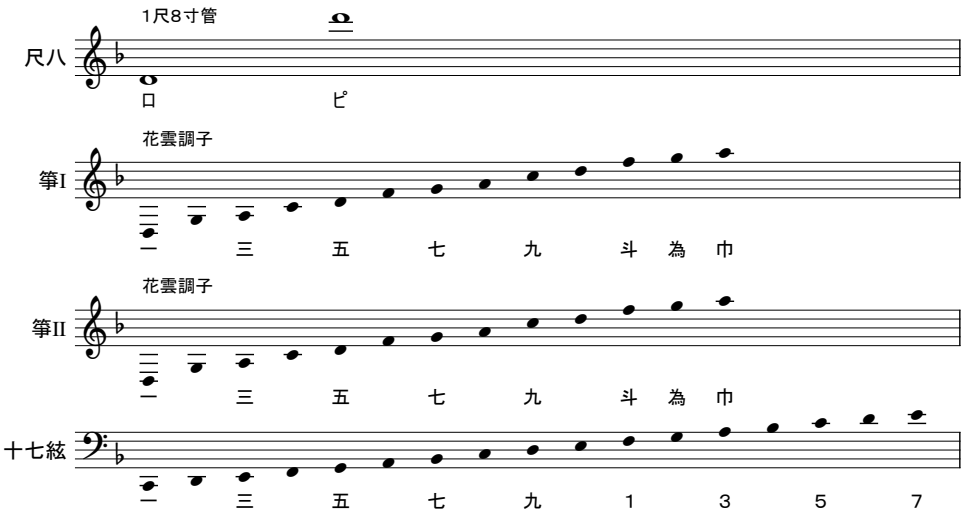
また来年も来ようと語りつつ、３人が店を後にすると、北見の街に寒さがやってきます。

街中を吹き抜ける風爽やかに　澄み渡る青空高く雲白し
木々の葉は赤に黄色に織りなして　透明な水面（みなも）に映える常呂川（ところがわ）
懐かしい北の大地が呼んでいる　美しい白樺並木が我を呼ぶ
鳥たちが秋の日差しを浴びながら　紅葉の山から迎えに飛んでくる
悲しさもここに来れば癒される　永久（とわ）の友　せんじゅに集う嬉しさや

夕暮れが日ごと深まる秋の色　山の端が茜に滲む西の空
静かなる北見の空に白き月　金色（こんじき）の一番星も輝ける
麗しい北の大地が待っている　暖かく迎えてくれるわが街よ
見るほどに心清まる秋の空　星たちが静かに見守るふるさとよ
友情を幾重に紡ぐ仲間たち　わがせんじゅ　心の灯（ともしび）いつまでも

©2022 酒泉 彰

加羅古呂庵ホームページ



運指、奏法については、適宜工夫していただいてけっこうです。